

たのしい たのしい 船穂校♪

倉敷市立船穂小学校

横山文朗

書く活動

書く活動の中には、漢字を書く、教科書の記述を書くなどと書き写す活動もあるが、ここでの書く活動とは、自分の考えや思いを書くということである。人は思考をするとき、頭の中で情報を整理し問題や課題に対する答えを捜していくのだが、書くという活動によって、思考が整理され自分の論理や主張がはっきりとしてくる。

岡山型学習指導のスタンダードにあてはめてみると、書く活動の中心的な場面は、自力解決の場と振り返りの場になると思う。研究授業でよくワークシートを使う授業をみるけれども、めあてやまとめまでワークシートに書くようになっている。このワークシートをこの後どうするのかと思う。ノートには、めあてとまとめだけが書かれていて、黒板を書き写すだけのノートもよく見る。担任の頃、年度の終わりにこの子と思う子に各教科のノートをもらっていた。ノートを持っていると次にその学年を担当した時に、どのような指導をしたのか。子どもはどんなことを考えたのか、思ったのかがわかり、とても役立つからだ。自力解決の時間を必ず取り、各自が自分の考えや思いをノートに書けるようにしたい。ワークシートを作成した時は、必要な部分を切り取ってノートに貼らせたい。はさみとのりは、わたしの教室では、鉛筆と消しゴムと同等の学習用具だった。

振り返りの場では、本時の学習を振り返り、自分の学び、友だちとの学び、先生との学びで思ったことや感じたことを書かせたい。また、本時を振り返る中で、次の学習について考えさせ、次時のめあてにつなげたい。「小数+小数の計算の仕方はわかったけれども、引き算はどうかかな。」とか、「途中まではわかっていたようにおもったけれども、まとめのところでよくわからなくなった。家でもう一度やってみようと思う。」などの振り返りができれば最高だと思う。

ノートは子どもたちの思考の記録である。研究授業の場に全員のノートを持参し、それをもとに本時の反省をすればとてもスマートで真摯な態度に思える。自分の思いや感覚だけで授業反省をされると、「あんたはそう思うんじゃないけえど、どこに根拠があるんなら！！。」と毒づきたくなることもある。

